**第５６回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨**

日　時：令和８年６月８日（月）　１３：１０～１５：００

場　所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

１．廃炉・汚染水・処理水対策事業 進捗状況について

福島大学から核燃料物質・難分析元素等の分析の迅速化・効率化技術の開発の成果の一部を説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○ 実機適用に必要とされる感度・精度・不確かさについては今後評価を進め、既存手法と同等レベルを確保した上で自動分析技術として構築し、現場へ展開されていくことを期待される。

２．東電のエンジニアリング状況について

東京電力から 3 号機 PCV 内部気中部調査(マイクロドローン調査)、2 号機既設原子炉水位計装配管を活用した RPV 内部調査の結果について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

（１）3 号機 PCV 内部気中部調査(マイクロドローン調査)について

○ マイクロドローン調査にて RPV 底部の損傷が確認されるなど大きな成果が得られており、今後は中継器の活用可能性も含め、RPV 底部よりも上の位置までの飛行・調査の実現に向けた検討を進めること、画像分析等の結果より損傷メカニズムや事故進展との関係性を考察することが期待される。

（２）2 号機既設原子炉水位計装配管を活用した RPV 内部調査の結果について

○ 今回調査した範囲のシュラウドに損傷が確認されなかったことと、燃料デブリの分析結果を踏まえた事故進展との関連を整理することが重要である。

３．技術戦略プラン 2026（案）について

機構から、技術戦略プラン 2026（案）を説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○ 燃料デブリの分析については、今後のサンプルの蓄積により信頼性向上を図るとともに、事故進展の再整理やシミュレーション高度化への活用に繋げることが重要である。

○ 技術戦略プランは内容が詳細化している一方で全体戦略や優先順位が見えにくくなっていることから、それらを理解しやすいようにすることが望まれる。

以上